

2024年2月8・9日 愛知県立半田高等学校1年生「生物基礎」

2024年2月8日～9日に愛知県立半田高等学校の1年生8クラス(320名)と「家庭基礎」の授業の中で「プレパパ・プレママ教室」を行いました。今回は、修了生であり長崎大学病院遺伝カウンセリング室に勤務するの平間看護師も授業を担当しました。以下、平間看護師の報告です。

=====

私は、2年前に半田高校で遠隔授業を実施して以来の「プレパパ・プレママ教室」の参加でした。前回のZOOM上で行う遠隔授業では、生徒さんの表情やディスカッション中のやりとりを直接見ることはできませんでしたが、今回は対面で高校1年生の生の声を聞いたり、表情を見たりすることができ、私にとっても貴重な時間となりました。

まず、私たちの出生前検査に関する講義の後、模擬遺伝カウンセリングとして武田先生からの経験談を聞かせていただきました。リアルな声を聞いている間の生徒さんの真剣な表情が印象的です。妊娠生活の中でどのような葛藤が生じるのか、普段はあまり聞くことができないお話を聞かせていただいたことで、実際にその後に模擬検査を検討するためのイメージがふくらみ、その後の模擬検査の検討に活かすことができました。



NIPT、羊水検査の各模擬検査では、自分だったら検査を受けるのか受けないのか、すごく真剣に考え、グループ内で共有してくれました。同じグループ内の友人の意見を否定せず、「確かに、そうだよね。」「自分だったら～。」とそれぞれの思いを話してくれました。

羊水検査での流産のリスクが0.3%あることについて、「0.3%っていう値は実際高いと思う。」「0.3%の頻度って、一般的な他の頻度で例えられるかな？」などと議論している様子もみられ、実際のリスクを判断している様子が、さすがスーパーサイエンスハイスクールに指定されている半田学校の生徒さんたちだととても感心しました。

各模擬検査でのディスカッションの中で、印象に残っている意見を紹介します。

- ・検査をしておくことで、自分の覚悟を決めたり、前もって病気について勉強したうえで赤ちゃんを迎えることができると思う。
- ・NIPTを受ける場合、陽性であることも想定し、羊水検査を受けることまで考えた上でNIPTを受けるべきだと思う。
- ・21トリソミーの寿命は60代。そこまで生きることができるのに、生まれる前から諦める選択をしていいのだろうか…。

- ・妊娠生活を楽しみたいから、事前に全て知ることが良いわけじゃないんじゃないかな。
- ・羊水検査はリスクがあるのは自分の奥さんだから、奥さんに負担がかかってしまうと、検査を受けたいって言うていいのかな…。

高校1年生の生徒さんたちが、考え、共有してくれる意見は、普段から出生前検査について考えている私たちにとってもハッとさせられる意見もあり、私たちが想像していた以上に自分事として考えてくれたことをとても嬉しく思いました。今回一緒に学習をした生徒さんたちも、実際に十数年後、出生前検査を受ける人もいるかもしれません。今回の学習での意見はどんな意見も間違いではありませんし、将来は今の気持ちから変わっているかもしれません。いつか迷うことがあったら、今回の「プレパパ・プレママ教室」を思い出してほしいなと思います。検査でわかるのはあくまでも「病名」のみで、子どもが「どのように育つか」までは調べることができません。今回、難しい選択を真剣に考えてくれたように、将来自分がその立場になった時も、生まれてくる子どもと家族のために一番何が良いか夫婦でよく話し合っけて納得することが大切です。そして、全員で特徴ゲームをしてわかったように、人間は一人一人違い、全員がたった一人の大切な人であるということが伝わっていたら嬉しいなと思います。

半田高校1年生のみなさん、武田先生、ありがとうございました。



文責：平間 理子